

令和元年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	国立大学附属中学校における不適応生徒の支援-過剰適応に注目して-
報告者氏名・所属・職名	安川禎亮・教職大学院・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	柴田題寛・北海道教育大学付属釧路中学校・教諭 木須千明・北海道教育大学付属釧路中学校・養護教諭 上村雅代・北海道教育大学付属釧路中学校・スクールカウンセラー
研究内容及び成果の概要	
<p>国立大学附属中学校に在籍している生徒の多くは、周囲からの期待に応えるべく、必死に努力しており、所謂「いい子」である。保護者も子どもに大きな期待を寄せ、子育てに対するプライドも高い。しかし、その一方で生徒の意識調査の結果からは、自らに対する見方が厳しく自尊心が低い傾向が見られ、不登校や自傷行為といった学校不適応を起こす生徒が多い。これは、「いい子でなければならない」という過剰適応の状態が続いていることに起因する。また、教職員も能力の高い生徒を教育しているという意識から、生徒の力を過信する傾向があり、内面に深く入り込めていない。不適応を起こしても担任に任せることが多く、組織的に取り組めていない状況がある。そこで本研究は、生徒が充実した学校生活を送ることを目指し、教職員の情報共有のもと学校生活に困難を抱えている生徒を把握し、過剰適応による不適応行動の未然防止策を検討するとともに、組織的なよりよい取組の構築を目的とした。</p> <p>不適応生徒への効果的な支援を心理的支援と教育的支援を融合させる中で、実践し、検討、分析を重ねた。結果として、次の2点の重要性を確認した。</p> <p>①過剰適応から来る不適応生徒への支援方法；治療的な対処方法を探求するとともに、予防的な対処法も視野に入れて取り組むことが重要である。それは、ストレスマネジメント教育をベースにした心の健康教育を実践する中で、明らかになった。</p> <p>②国立大学附属中学校における支援体制（下図参照）；</p>	
<p>□担任中心の対応から、組織的な対応へ</p>	
<p>これまで担任が主体となり、生徒の支援に当たっている状況があった。そのため、組織的に取り組むために支援検討委員会を立ち上げ、情報共有のための支援共有シートの開発、SC等外部人材の活用することにより、組織として対応することができた。</p>	
成果の公表の状況	
<p>【著書】 編著：安川禎亮 著者：木須千明、柴田題寛 書名：教育実践◎中学生のためのストレスマネジメント教育、合同出版、2020年4月、96頁</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
<p>授業では、保健体育分野、道徳で利用可能である。また、子供のメンタルヘルス面で大いに活用できる。さらには、養護教諭による保健室での効用も大きい。</p>	

配布又はダウンロード可能な資料	
問合わせ先	代表者： 安川禎亮 電 話： 0154-44-3328 FAX : 同上 mail : yasukawa.sadaaki@k.hokkyodai.ac.jp